

つくろう！守ろう！安心できる情報社会



ICTリテラシー実態調査 について

総合的なICTリテラシー向上推進会合
事務局

調査の目的

ICTリテラシー向上に資する取組の更なる推進のため、利用者のICTリテラシーに関する認識や偽・誤情報の拡散傾向等、ICTリテラシーに係る実態を把握する。

調査対象

調査対象 : 2,820サンプル、全国47都道府県×15歳以上（10・20・30・40・50・60代以上）×男女
調査方法 : 全国インターネット定量調査
調査期間 : 2025年3月31日～2025年4月2日
調査協力 : 山口 真一准教授（国際大学グローバル・コミュニケーション・センター）

調査項目

ICTリテラシー、偽・誤情報の拡散に関する「利用者の認識に関する実態把握」

ICTリテラシーに関する認識の実態把握等

ICTリテラシーに関する認識
ICTリテラシーに関する認識の回答理由
ICTリテラシー向上のための取組の必要性
ICTリテラシー向上のための具体的な取組
ICTリテラシー向上のための取組理由

偽・誤情報の拡散に関する認識の実態把握等

偽・誤情報の拡散経験
拡散時の偽・誤情報に対する認識
偽・誤情報の拡散理由
偽・誤情報の拡散手段/拡散した情報のジャンル
SNS・ネットの情報に対する正誤判断の基準
拡散した情報が偽・誤情報だと気付いた経緯

集計について

総務省統計局「令和2年国勢調査」の人口構成比を基にウェイトバックを行い調整

- 過去に流通した偽・誤情報を見聞きした人に対して、その内容の真偽をどのように考えるか尋ねたところ、**「正しい情報だと思う」、「おそらく正しい情報だと思う」と回答した人の割合は47.7%。**
- 偽・誤情報に接触した人のうち、**25.5%**の人が何らかの手段を用いて**拡散**した。
- **87.8%**がICTリテラシーを重要だと思っている一方、**75.3%**は、**ICTリテラシー向上に向けた具体的な取組を行っていない**と回答した。

結果の要点

1 偽・誤情報の認識・ 拡散状況	● 過去に流通した偽・誤情報を見聞きした人に対して、その内容の真偽をどのように考えるか尋ねたところ、「正しい情報だと思う」、「おそらく正しい情報だと思う」と回答した人の割合は47.7%※1。 ※1 偽・誤情報の接触数に応じた加重平均で算出 ● 偽・誤情報に接触した人のうち、25.5%の人※2が何らかの形で拡散した。若い年代において拡散した割合が多かった。 ※2 偽・誤情報15件のうち、1件以上見聞きした人の中で、1件以上家族や友人などの周囲に伝えたり、不特定多数の第三者に対して発信したと回答した人の割合
2 偽・誤情報の拡散 理由と手段	● 拡散した理由として最も多いのは、「情報が驚きの内容だったため」(27.1%)。情報に価値があると感じて拡散したと思われる回答が多かった。 ● 拡散した手段として多いのは、「家族や友人など周囲の人へ対面の会話」(58.7%)、「家族や友人など周囲の人へメールやメッセージアプリ」(44.3%)など、身近な人に拡散する回答が多かった。不特定多数にインターネットを用いて拡散する者も存在した(44.4%)。
3 SNS・ネット情報に 対する正誤判断の 基準など	● SNS・ネット情報を「正しい」と判断する基準として最も多いのは、「公的機関が発信元・情報源」(41.1%)。 ● 偽・誤情報と気づいた経緯は、「テレビ・新聞(ネット版含む)」(39.6%)、「テレビ・新聞以外のマスメディア(ネット版含む)」(30.4%)※3、「ネットニュース」(28.8%)というネット版を含めたテレビ・新聞、ラジオ・雑誌などから偽・誤情報の可能性があると感じた人が多かった。 ※3 「マスメディア」を「テレビ・新聞(ネット版含む)」と「テレビ・新聞以外のマスメディア(ネット版含む)」(雑誌、ラジオなど)として調査
4 ICTリテラシー に関する認識	● 「自身のICTリテラシーが高いと思う」という回答は35.2%に留まった一方、「ICTリテラシーが重要だと思う」、「どちらかといえば重要だと思う」との回答が87.8%と高い割合を示した。 ● 87.8%がICTリテラシーが重要だと回答した一方、75.3%は「ICTリテラシー向上に向けた具体的な取組をほとんど行っていない」、「全く行っていない」と回答した。

1. 偽・誤情報の認識・拡散状況

偽・誤情報の認識・拡散状況

- 過去に流通した偽・誤情報を見聞きした人に対して、その内容の真偽をどのように考えるか尋ねたところ、**「正しい情報だと思う」、「おそらく正しい情報だと思う」と回答した人の割合は47.7%。**
- 偽・誤情報に接触した人のうち、**25.5%**の人が何らかの手段を用いて**拡散**していた。

偽・誤情報の真偽判断

- 「正しい情報だと思う」「おそらく正しい情報だと思う」
- 「どちらともいえない」
- 「誤った情報だと思う」「おそらく誤った情報だと思う」

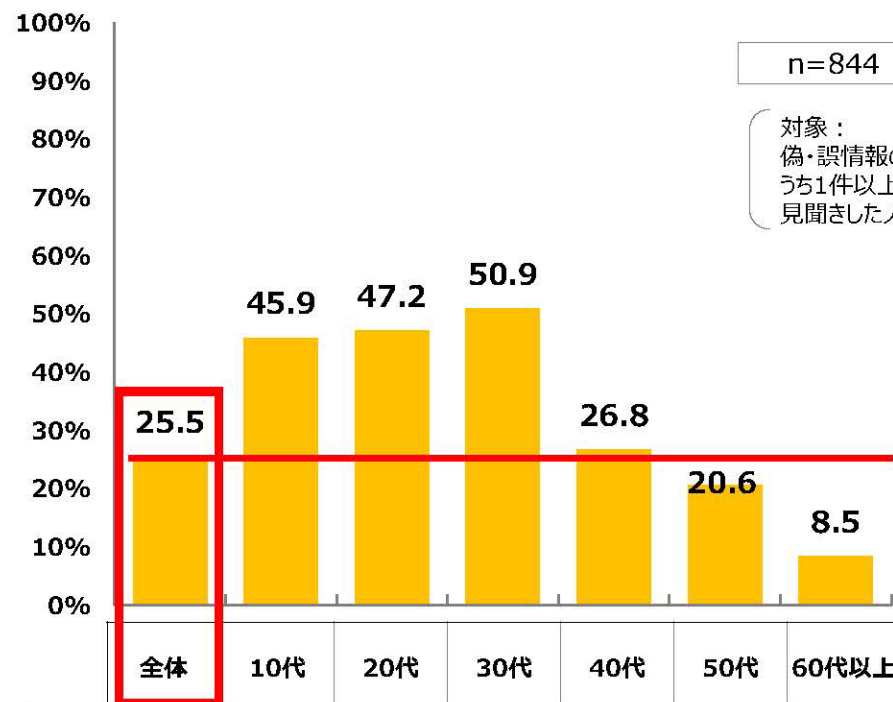


偽・誤情報の接触数に応じた加重平均で算出
 (各情報ごとに、見聞きした人の中で『正しい情報だと思う』『おそらく正しい情報だと思う』『どちらともいえない』『誤った情報だと思う』『おそらく誤った情報だと思う』と回答した人数をそれぞれ合計したのに対して、各情報について「見聞きした人数」の合計値で割る形式)

対象：
偽・誤情報のうち
1件以上見聞きした人

偽・誤情報を何らかの形で拡散した人の割合

■ 偽・誤情報15件のうち、1件以上見聞きした人の中で、1件以上家族や友人などの周囲に伝えたり、不特定多数の第三者に対して発信したと回答した人の割合



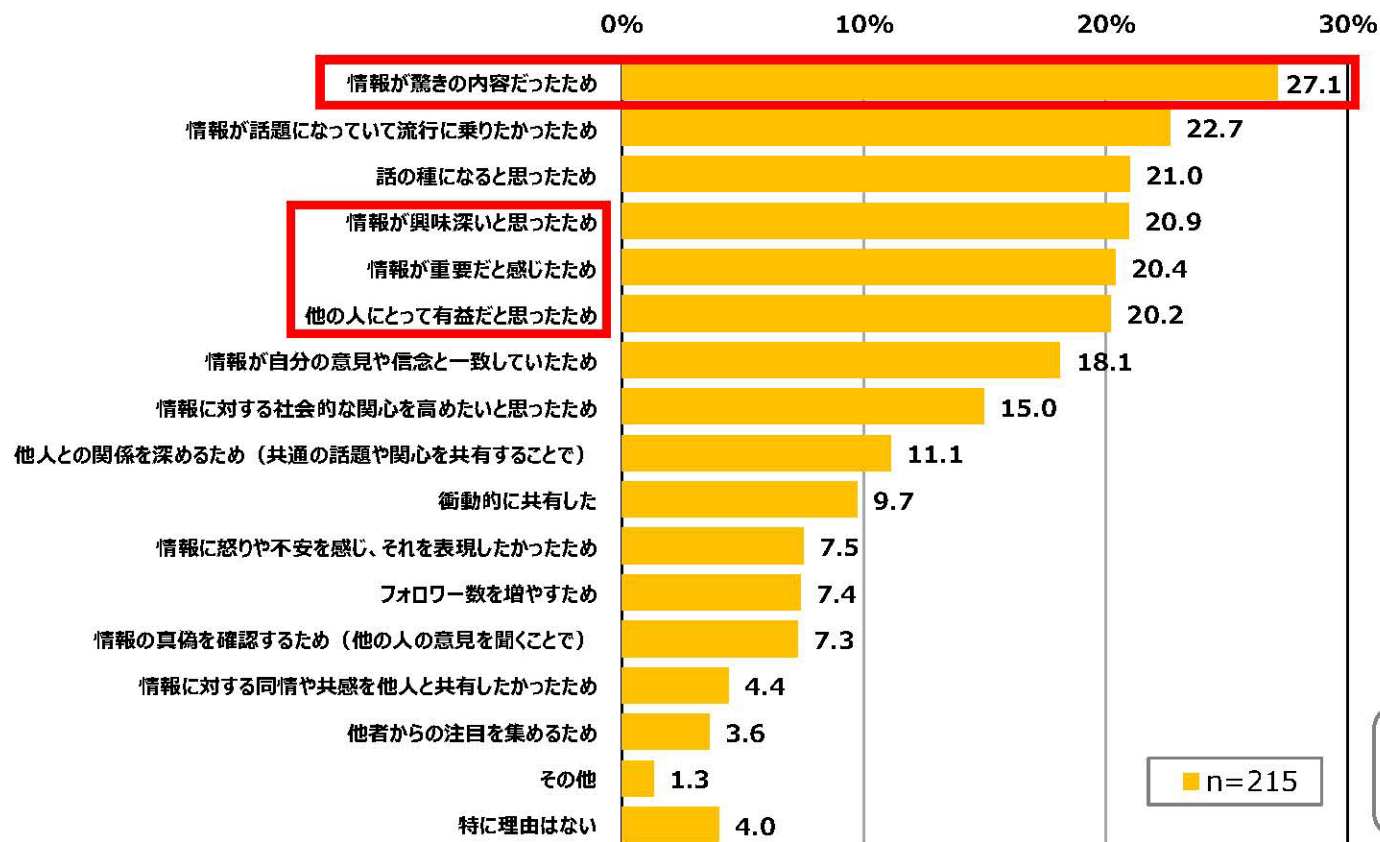
※本調査で用いた偽・誤情報は、国内において実際に流通・拡散したことがあるものを用いている
 ※「令和2年国勢調査」の人口構成比を基にウェイトバックを行い調整をしている

2. 偽・誤情報の拡散理由と手段

偽・誤情報を拡散した理由

- 偽・誤情報を拡散した理由は、「**情報が驚きの内容だったため**」(**27.1%**)という回答が最も多かった。
- 「興味深いと思った」(20.9%)、「重要だと感じた」(20.4%)、「他の人にとって有益だと思った」(20.2%)など、**情報に価値があると感じて拡散したと思われる回答が多かった。**

偽・誤情報の拡散理由 (複数回答)



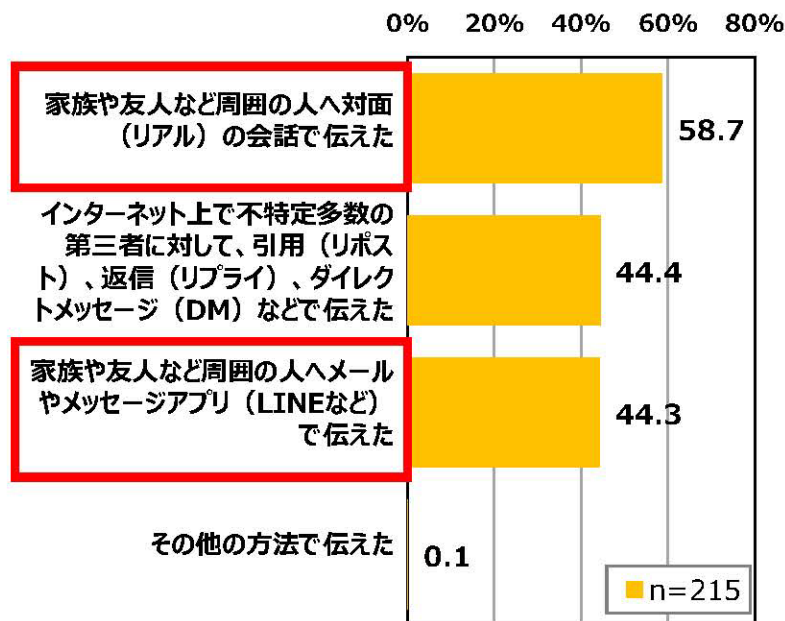
対象：
偽・誤情報15件のうち1件以上見聞きし、
かつ1件以上拡散した人

2. 偽・誤情報の拡散理由と手段

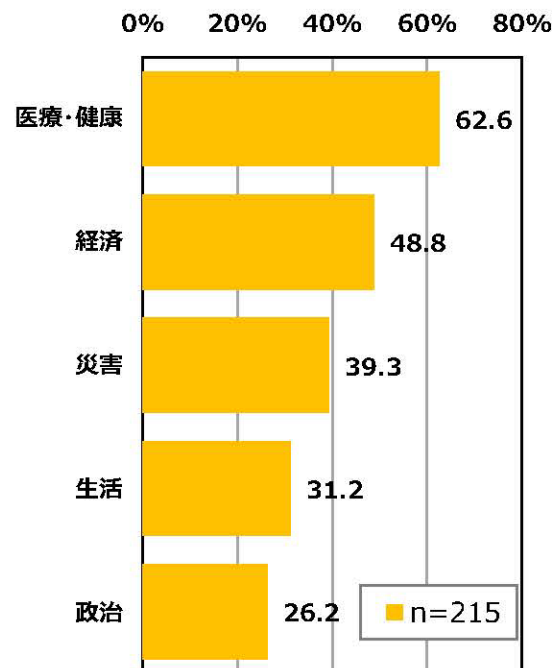
偽・誤情報の拡散手段、拡散した偽・誤情報のジャンル

- 偽・誤情報を拡散した手段として、「家族や友人など周囲の人へ対面の会話」(58.7%)、「家族や友人など周囲の人へメールやメッセージアプリ」(44.3%)という回答があり、**身近な人に拡散することが多かった**。また、不特定多数にインターネットを用いて拡散する者も存在した(44.4%)。
- 拡散された偽・誤情報のジャンルは「医療・健康」(62.6%)、「経済」(48.8%)、「災害」(39.3%)の順で多かった。

偽・誤情報の拡散手段 (複数回答)



拡散された偽・誤情報のジャンル (複数回答)



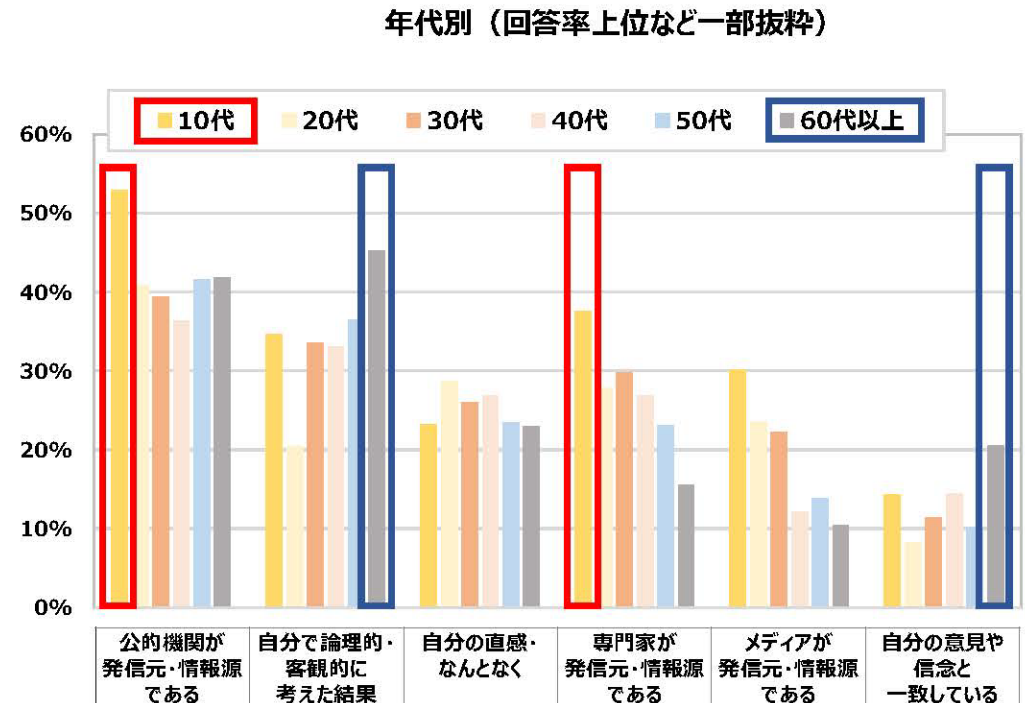
対象：
偽・誤情報15件のうち
1件以上見聞きし、
かつ1件以上拡散した人

3. SNS・ネット情報に対する正誤判断の基準など

SNS・ネット情報を「正しい」と判断する基準

- SNS・ネット情報を「正しい」と判断する基準は、「**公的機関が発信元・情報源である**」(**41.1%**)という回答※が最も多かった。 ※偽・誤情報の接触有無を問わず全員に質問
- 10代では「公的機関」、「専門家」などの回答が多く、60代以上では、「自分で論理的・客観的に考えた結果」、「自分の意見や信念と一致している」などの回答が多かった。

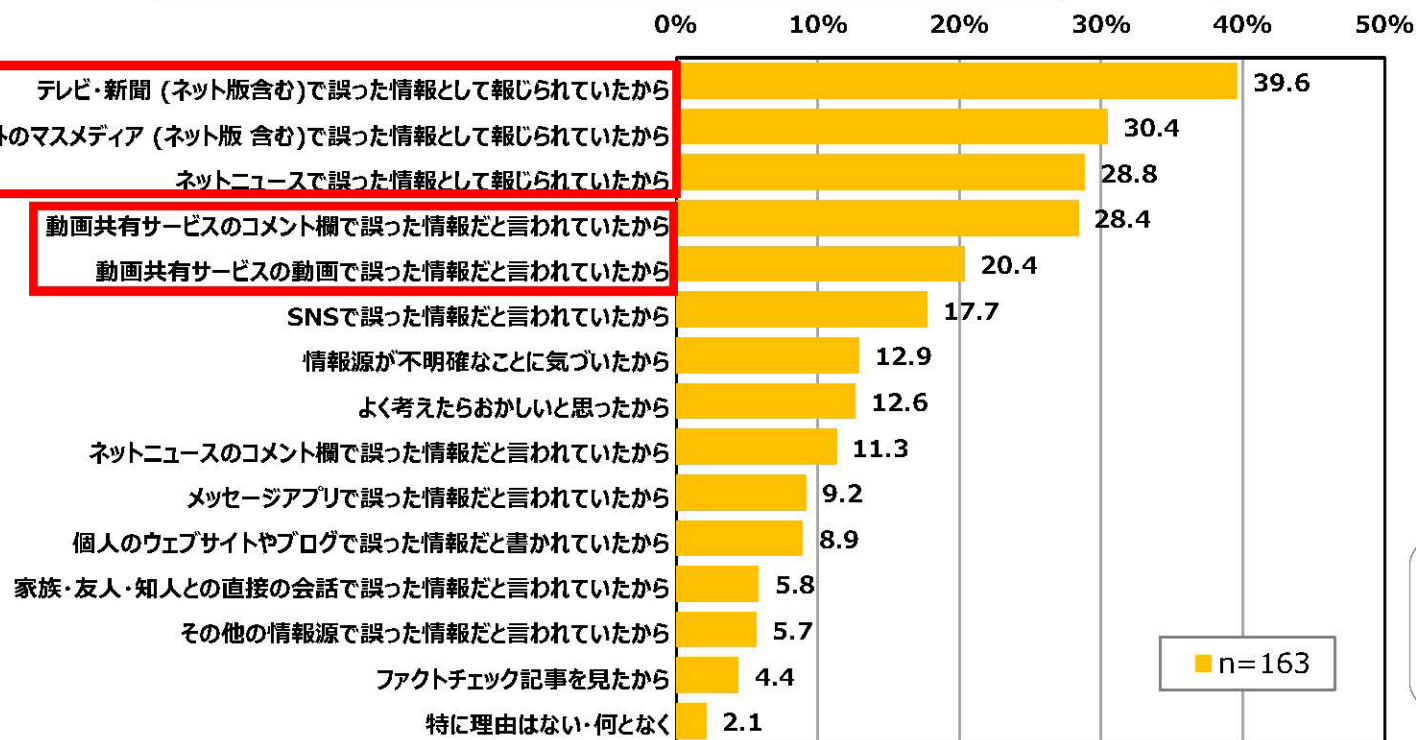
ネット情報を「正しい」と判断する基準（複数回答）



拡散した情報が偽・誤情報だと気づいた経緯

- 「テレビ・新聞(ネット版含む)」(39.6%)、「テレビ・新聞以外のマスメディア(ネット版含む)」(30.4%) ※、「ネットニュース」(28.8%)と、**ネット版を含めたテレビ・新聞、ラジオ・雑誌などから偽・誤情報の可能性****がある**と気づいた人が多かった。
※「マスメディア」を「テレビ・新聞（ネット版含む）」と「テレビ・新聞以外のマスメディア（ネット版含む）」（雑誌、ラジオなど）として調査
- 「動画共有サービスのコメント欄」(28.4%)、「動画共有サービスの動画」(20.4%) と、動画共有サービスが偽・誤情報の可能性があると気づききっかけとして活用されていた。

拡散した情報が偽・誤情報の可能性があると気づいた経緯(複数回答)



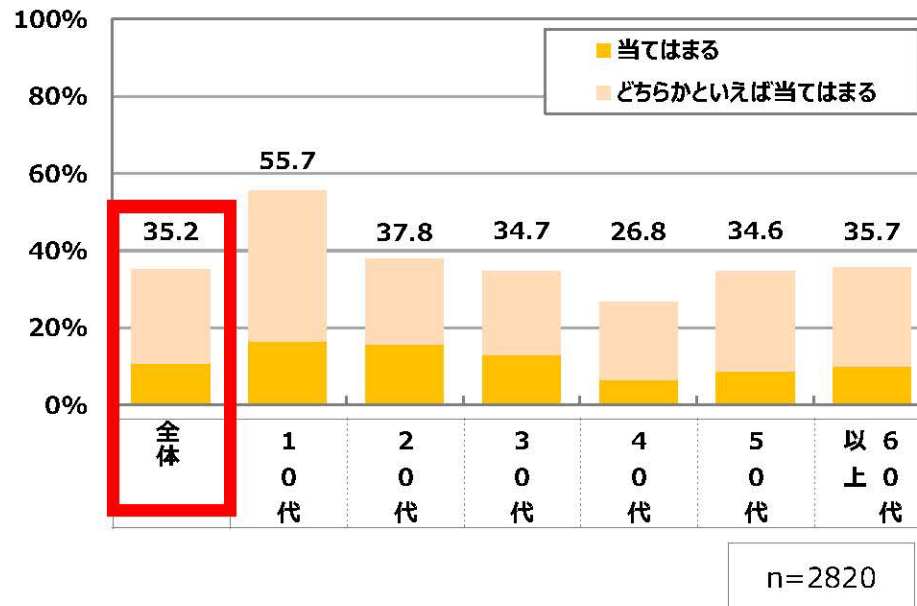
対象：
偽・誤情報15件のうち1件以上見聞きし、1件以上拡散した人のうち、誤った情報の可能性があったと思ううえで発信した人

4. ICTリテラシーに関する認識

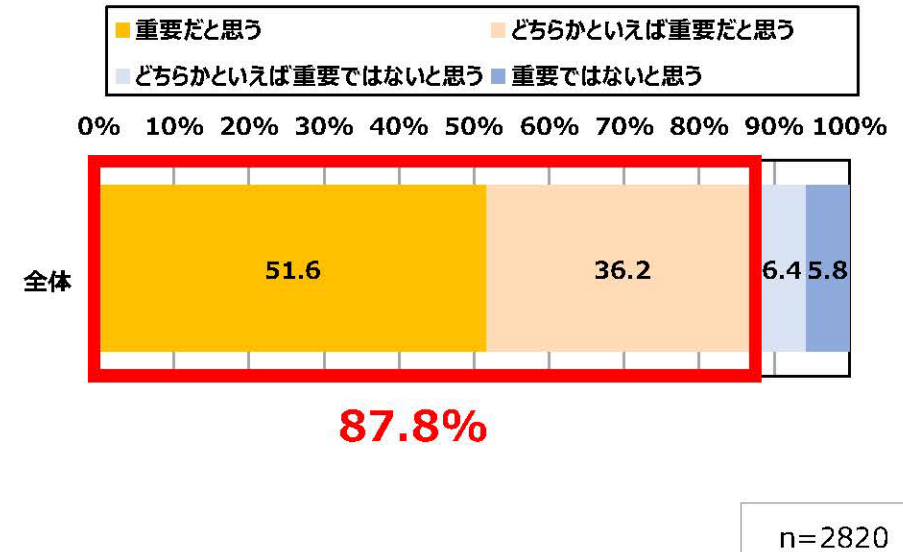
自身のICTリテラシー向上に対する意識

- 「自身のICTリテラシーが高いと思う」という回答が**35.2%**に留まった一方、「ICTリテラシーが重要だと思う」、「どちらかといえば重要だと思う」との回答は**87.8%**と高い割合を示した。

自身のICTリテラシーが高いと思う



ICTリテラシーの重要性に関する意識



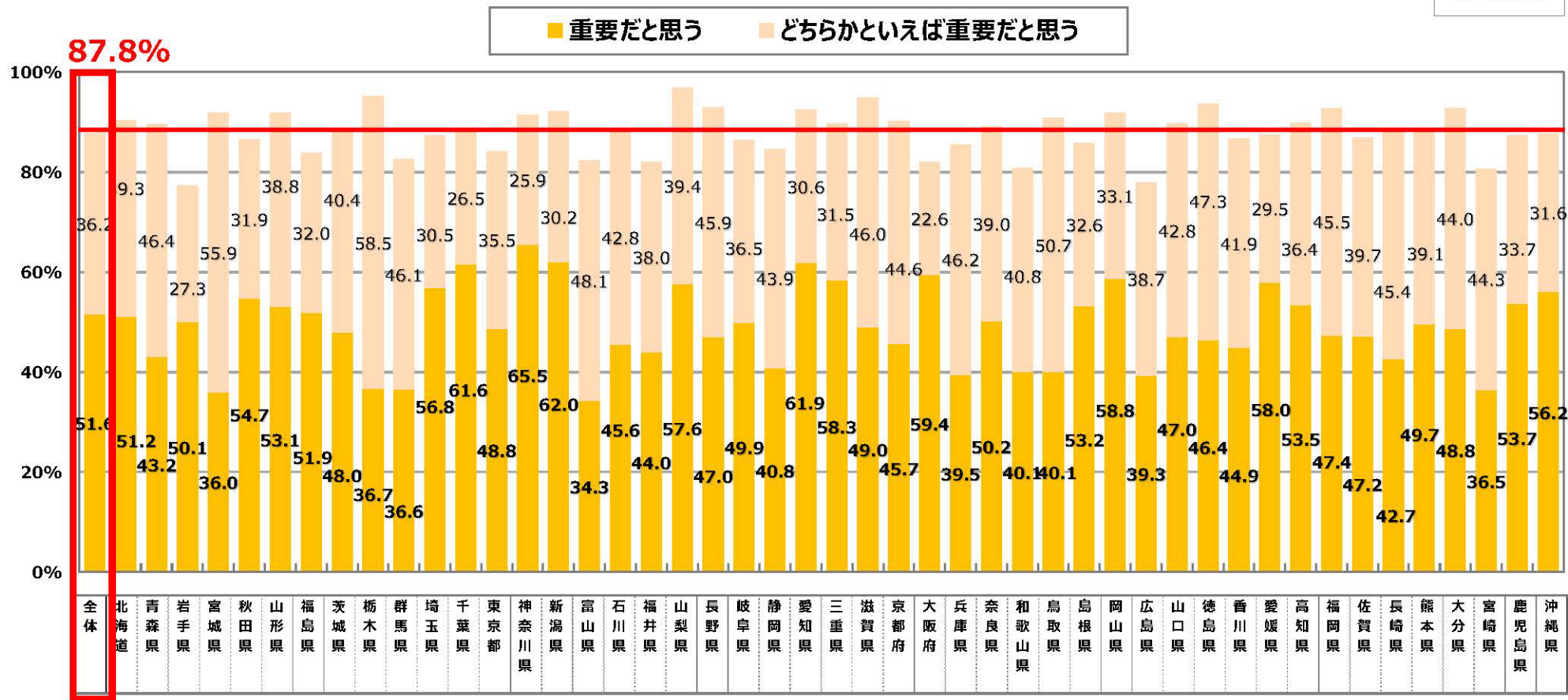
4. ICTリテラシーに関する認識

自身のICTリテラシー向上に対する意識（都道府県別）

- 地域による有意な差は見られなかったが、「ICTリテラシーが重要だと思う」(51.6%)、「どちらかといえば重要だと思う」(36.2%)という回答は87.8%であり、**約9割がICTリテラシーが重要だと回答した。**

ICTリテラシー向上に対する意識（都道府県別）

n=2820

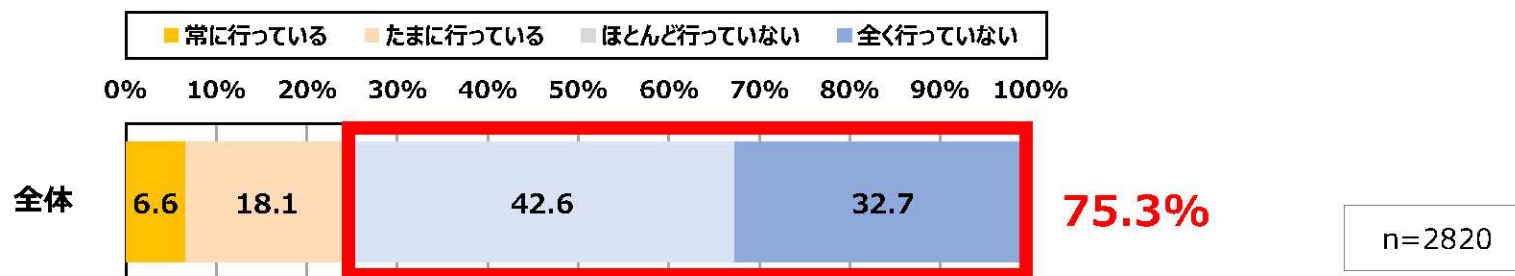


4. ICTリテラシーに関する認識

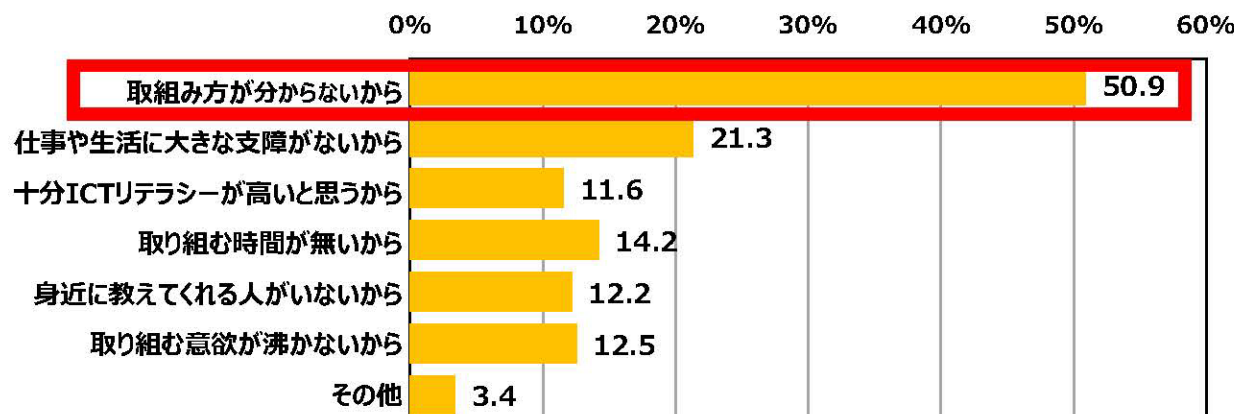
自身のICTリテラシーに関する取組の認識と理由

- 87.8%が ICTリテラシーが重要だと回答した一方、「ICTリテラシー向上に向けた具体的な取組をほとんど行っていない」、「全く行っていない」という回答が**75.3%**であった。
- 取組を行っていない理由は、「**取組み方が分からないから**」(**50.9%**)という回答が最も多かった。

ICTリテラシー向上の取組の実態



ICTリテラシー向上に向けた取組を行っていない理由(複数回答)



対象：
ICTリテラシーの取組について
「全く行っていない」
または「ほとんど行っていない」と
回答した人

n=2124

4. ICTリテラシーに関する認識

自身のICTリテラシー向上の取組の認識（都道府県別）

- 地域による有意な差は見られなかったが、87.8%がICTリテラシーが重要だと回答した一方、「ICTリテラシー向上に向けた具体的な取組を常に行っている」、「たまに行っている」という回答が24.7%と、重要性の認識と比較すると取組が少なかった。

ICTリテラシー向上の取組の認識

n=2820

